

週刊

ダイヤモンド

<http://dw.diamond.ne.jp/>

「ポスト京都」視野に
商社・金融が群がる
排出権取引の内実

2007

定価570円

7 28

ニッポンの観光

激変!



本邦初公開!
全国「土産物」
売り上げランキング

初調査!
都道府県別
「観光力」ランキング
1位 北海道
2位 長野
3位 静岡
……47位 徳島

石見銀山
逆転登録へ!
世界遺産マップ&
候補地20カ所リスト

旅行先選びに役立つ!
観光地&温泉地
アンケート調査
5000人の「満足と不満」

全世界で80兆円規模へ

沸騰する
コモディティ
市場

全国「ご当地グルメ」マップ
イタリアン(新潟)／ゼリーフライ(行田)
鱈バーガー(静岡)／にくてん(神戸)
ぎょうつけ(大分)……全250品

小泉内閣以降、“観光立国”に拍車

海外では観光担当の省や庁は当たり前

1985年以降	円高が進行し、海外旅行ブームに
99年 7月	旅行予約サイト「旅の窓口」スタート(現・楽天トラベル)。インターネットの活用広まる
2001年 9月	米国同時多発テロで、観光が停滞
03年 1月	小泉純一郎首相が観光立国懇談会を開催
03年 4月	「観光立国懇談会報告書——住んでよし、訪れてよしの国づくり」が出される
	ビジット・ジャパン・キャンペーン(VJC)実施。本部事務局が発足。訪日外国人旅行者数の目標を2010年に1000万人とする(02年は524万人)
03年 9月	石原伸晃国土交通大臣が「観光立国担当大臣」に任命される
04年10月～	韓流ブームで、旅行各社が韓国ツアーを拡充
05年 3月	愛知万博が開催される。約2200万人が来場し、このうち外国人は約100万人
07年 1月	観光立国推進基本法が施行
07年 6月	観光立国推進戦略会議報告書「地域が輝く『美しい国、日本』の観光立国戦略」「観光立国推進基本計画」が出される
08～09年	観光庁発足へ!?

万人。これに台湾一三二万人、米国八二万人、中国八十一万人、香港三五万人、英国二二万人、オーストラリア二〇万人、カナダ一六万人が続いている(国際観光振興機構「JNTO」の調査)。

外国人旅行者がどの都道府県を訪問しているかを推計した調査によると、ベスト3は五八・五%の東京、二二・六%の大阪、一九・一%の京都。四位以降は千葉(一五・四%)、愛知(一一・九%)、福岡(七・四%)、兵庫(六・九%)、山梨(五・八%)、北海道(五・六%)の順となっている(JNTO訪日外客訪問地調査)。

地域の潜在的な観光資源が掘り起こされ、「観光力」が発揮できれば、国内外を問わず、多くの観光客を引きつけられるはずだ。

日本旅行業協会の石山醇参与は「地方空港を生かし、集客に成功しているケースも増えている。台湾などからチャーター便で能登空港に降り、能登、立山、黒部を回って富山空港から帰国する。県がプロモーションを行ない、観光ルートを開発する動きも出てきた」と相手を崩す。

日本の観光地は、今大きく変わろうとしている。その詳細をPart 2以降で紹介していく。

今年は観光立国元年だが

ホテル・旅館の経営は正念場

江口恒明 ● 観光経済新聞社社長

海

外への旅行者と海外からの来訪者の比率が、日本は三対一となっており、アンバランスな状態だ。政府は外国人訪日客を二〇一〇年に一〇〇〇万人にしようとしているが、近い数字までいくだろう。だが、もっと高い数字を達成するには中国しかない。

年間約三五〇〇万人が海外に行く中国だが、日本への旅行者は八十一万人にすぎない。ビザ発給が緩和されているものの、犯罪者の流入などの心配から制約がある。ビザの問題や受け入れ体制が整えば、早い段階で日本を訪れる中国人は三五〇万人になるだろう。

中国を含め、海外からの来訪者に、いい印象を持ってもらえるか、また来たいと思ってもらえるかが重要だ。それを左右するものの一つが旅館、ホテルなど宿泊施設。ところが、大型の旅館、ホテルは過大な借金、団体客の減少、安値競争といった問題を抱えている。経営の悪化がもたらすサービスの低下は、旅行者を失望させることになりかねない。

かつてはレジャーⅡ旅行というイメージがあり、団体客を中心に観光、

旅行業界は潤い、旅行会社から送り込まれる大量の送客を受け入れる施設を造ろうと、バブル期に大きな投資をしている。しかし、バブル崩壊後、社員旅行などの団体客が減り、国内旅行は頭打ちの状態だ。

一九九八年頃から大型ホテルの倒産が始まったが、過大な債務を抱え込んだままの状態はいまなお続いている。年商の一・五倍程度の借り入れであればいいのだが、五・七倍の借金を抱えているところもある。

バブル期には借りろ、借りろと言っていた金融機関も早期返済を迫っている。当事者に知らせないまま、外資に債権を売り払うところもあるが、再生のために努力している旅館、ホテルには配慮が必要だろう。

日本にきた外国人は情緒のある日本旅館で、日本人の心に触れたいと思っているが、経営状況が不安定でいい人材も集まらないし、心を癒やすサービスもままならない。観光立国、インバウンドと騒いでいるが、旅行者の期待を裏切るようなことにならないか心配している。今年は観光立国元年であるが、正念場の年でもある。

(談)

